

島根高P連だより

第57号
2019.12.15

発行・編集 島根県高等学校PTA連合会事務局 松江市黒田町538 TEL/0852-22-8602 FAX/0852-22-8735
E-mail : shimakp@orange.ocn.ne.jp URL : http://www/shimakp.jp/



キシニャモミヤ祭り出店

隠岐島前高校



歩こう会(3年西ノ島)



碧燎祭



グローバル探究(ロシア ウラジオストク)



ボランティア(しめ縄づくり)

横田高校



1年生奥出雲学
(オオサンショウウオの保護活動)



2年生だんだんカンパニー
(東京での販売実習)



創立百周年を記念して稲穂祭
(学園祭)での人文字



60周年記念瓦文字作成



ロードレース大会



桜江災害復旧ボランティア

江津高校



きらめきフェスタ

目次

- 第70回全国高P連大会島根大会に向けて
島根県高P連副会長 志波 英樹 2
- 令和元年度 島根県高P連研修会 2
- 第69回全国高P連大会京都大会 3
- 第61回中国・四国地区高P連大会鳥取大会 3
- 全国高P連団体表彰校実践報告 情報科学高校PTA 4
- PTA活動紹介 大社高校PTA 4
- 第70回全国高P連大会島根大会 準備状況 5
- 世界カデ柔道選手権大会出場 会長激励費贈呈
平田高校柔道部 福田 大和さん 5
- 令和元年度 県教委との意見交換会 6

第七十回全国高等学校PTA連合会大会島根大会に向けて



島根県高等学校PTA連合会副会長
(島根県立矢上高等学校校長)

志波 英樹

本年度より、校長協会を代表して島根県高P連の副会長を務めます矢上高等学校長の志波英樹です。会員の皆様方には、日頃から各校単位PTAの活動ならびに県高P連の諸活動にご尽力いただいておりますことに改めて敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、第七十回全国高等学校PTA連合会大会島根大会の開催が、いよいよ来年度となりました。本年六月に、昨年末での準備委員会を受けて実行委員会が発足し、運営委員会、会場部会等の組織構成が整いました。七月に第一回運営委員会、十月以降は各会場部会等が順次開催されるなど、着実に準備が進められているところです。また、八月の京都大会には各校単位PTAから多数の視察参加をいただき、全国大会の規模や取組を目的の当たりにして実感がわいたところも多々あったのではないかと思います。

過去に開催された全国大会では、子どもたちの健全育成、学校・家庭・地域の連携、家庭教育の向上、PTA活動の役

割などが研修テーマとなり、議論が重ねられてきました。「ご縁づくり〜いいご縁をつなごう世界へ、未来の子どもたちへ」を大会テーマとする島根大会では、島根が全国をリードする教育魅力化の他、新しい学びのあり方、SDGsなど、世界と未来につながる多様かつ今日的な「ご縁」の視点からの分科会が予定されています。また、分科会後の探究交流会、参加都道府県市高P連のスライド紹介など、島根大会で初めて実施される新しい「ご縁」企画も計画されているところです。これらの催しを通して、大会テーマにある「世界」「未来の子どもたち」につながるご縁とともに、全国から参加される方々とのご縁づくりが深まるような島根大会としたいものです。そのためにはまず、準備を進める私たちの確かなご縁と結束が大切ではないかと思えます。島根大会の成功に向け、引き続き県高P連会員全ての皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。

十月二十六日(土)にサンラポーむらくもで令和元年度島根県高等学校PTA連合会研修会を開催した。講師は安来市加納美術館名誉館長加納佳世子氏で、「次世代に託す平和への想い 画家 加納莞菴」という演題でご講演をいただいた。当日は県内の各地より三十九名の高P連会員の参加があり、平和について深く考える機会となった。以下は、講演の概要である。

令和元年度島根県高等学校PTA連合会研修会

PTA連合会研修会

現在、莞菴とキリノ大統領の交流を子どもたちに伝える取組みが様々な形で行われている。今年九月に布部小学校で開催された公演「奇跡の邂逅〜加納莞菴物語〜」では地元の小学生在が登場した。また、県教育委員会作成の中学校道徳教育郷土資料の中に「加納莞菴」が取り上げられている。マニラ日本入学校の中学部でも莞菴とキリノ大統領の交流を描いた劇を創作・上演したり、弁論大会の中で二人の交流を取り上げ、「平和を築く人になります」と決意を述べた中学生もいたことが紹介された。若い世代のこれらの取組みは「永遠の平和は、次の世代に求め、これを子どもたちに期待せねばならぬ」という莞菴の言葉に沿ったもので、大変頼もしく感じ

た。加納佳代子氏の講演を聴き、改めて平和の大切さや未来を担う子どもたちに伝えることの大切さを考える機会となった。

十月二十六日(土)にサンラポーむらくもで令和元年度島根県高等学校PTA連合会研修会を開催した。講師は安来市加納美術館名誉館長加納佳世子氏で、「次世代に託す平和への想い 画家 加納莞菴」という演題でご講演をいただいた。当日は県内の各地より三十九名の高P連会員の参加があり、平和について深く考える機会となった。以下は、講演の概要である。

加納莞菴(かのうかんらい)(一九〇四年〜一九七七年)は、能義郡布部村(現在の安来市広瀬町布部)出身の画家で本名は辰夫。加納佳世子氏は莞菴の四女である。莞菴はマニラ軍事裁判によりフィリピンの刑務所に収容されていた旧日本兵の釈放を訴える四十通を超える嘆願書をフィリピンのキリノ大統領に送り続け、「許し難きを許す」という奇跡によってのみ人類に恒久の平和をもたらした。「目には目を」ということでは決して達成し得ない」と嘆願した。これによって、一九五三年七月、キリノ大統領は百五名全員の日本人戦犯を釈放した。キリノ大統領はつぎのような声明(一部)を発表した。「私は妻と三人の子どもとその他五人の家族を日本人に殺されたため、彼等を赦そうとはよもや思ってもみなかった。私は私の子どもや国民が、やがてはわが国の恒久の利益の友となるかもしれない国民に、私から憎悪を受けつがしめないことを欲するが故に、これを行なうのである。」莞菴の「許し難きを許す」という奇跡によってのみ人類に



研修会の様子

第六十九回全国高等学校PTA連合会大会 京都大会

KYOから！ 未来を拓く

受け継ぎ、創る新たなストーリー

今年の全国大会は八月二十二日（木）～二十三日（金）に京都市の京都市勤業館みやこめっせとロームシアター京都を会場として開催された。「KYOから！ 未来を拓く」をメインテーマに、「受け継ぎ、創る新たなストーリー」をサブテーマに全国から一万名を超えるPTA関係者が集い、

来年全国大会を主管する島根県からも視察を兼ねて百六十名が参加した。メインテーマの「KYOから」には、「京都の地から」、「大会の今日から」、「共に協力して」、「（家庭）教育から」等の思いが込められ、過去に開催された全国大会や各地域の様々な研修会で蓄えられた財産を元に、子どもたちの未来や今後のPTA活動を創り上げるために研究・協議する機会となった。第一日目の午後には開会式と分科会、二日目の午前中に講演、閉会式が行われた。一日目の表彰式では全国高P連会長表彰（団体）に情報科学高等学校PTA、同じく（個人）に塩毛七栄氏（前松江東高校PTA・前島根県高P連副会長）が表彰された。開会式・表彰式に続き、六つの会場それぞれ分科会が行われた。第一分科会「（よくできる）とはどういうことか？」大学は、自分の可能性を見つけてる場である」、第二分科会「子どもたちを育む環境づくり」地域社会の現状と次世代を見据えて」、第三分科会「すぐそこの未来のしごと」とともに考

えるSocial GOにおいて求められる人材像、学びの在り方」、第四分科会「高校生の人間関係について考える」高校生の本音を聞いてみませんか？」、第五分科会「情報教育を体験する」現代の子どもが学ぶ情報教育を体験してみませんか？」、第六分科会「我が子の進路選択にどう向き合う？」入試が変わる、授業が変わる：動き出した教育改革」に分かれ、基調講演やパネルディスカッションが行われ、多くのことを学ぶ機会となった。第二日目は記念講演として、日本電産株式会社代表取締役会長（CEO）、京都先端科学大学等を運営する永守学園理事長永守重信氏を迎え、「学校教育・家庭教育に思うこと」と題して講演があった。

永守氏は「十八歳でどの大学に入るかで人生が決まってしまうかのような価値観はすでに通用しなくなっているにも関わらず、未だに、偏差値とブランド重視の進路選択から抜け出せていない。暗記と受験術で難関大学に合格し、大企業に入社したとしても、明るい未来が保証される時代ではない。難関大学に合格する

受験術を身に付けるより、夢を語り、その実現のために行動できる人材を育てるべきだ。」と述べ、「保護者は自分の子どもが何が好きで、何をやりたいのかを常に考え、子どもとともに成長していくことが大切だ。」と力説した。

講演後、前日行われた分科会の報告に続いて、閉会式が行われた。牧田和樹大会会長より閉会の挨拶があり、さらに京都大会奥野貴史実行委員長から次期開催地である島根県の大屋光宏実行委員会会長に大会旗が手渡された。その後、島根大会PRビデオが上演され、大屋会長は島根県観光キャラクターのしまねっことともに島根大会への参加を呼びかけ、大会が終了した。いよいよ来年は島根県開催である。全国単位PTA広報誌展示コーナーでは、県内から矢上高校の「PTAだより」、吉賀高校の「PTA広報ぶし」の出版があった。

開会式



開会式



島根大会のPR



広報誌展示



講演



高校生によるアトラクション

七月十二日（金）鳥取市のとりぎん文化会館梨花ホールにおいて、第六十一回中国・四国地区高P連大会鳥取大会が開催された。「ひらけ翼！ はばたけ未来！」と題して講演があった。養老氏は「自分が体験し身に付けたものだけが財産で、これからの激動の時代を生き抜く力となる」と述べ、自分で身につけたものの大切さを説いた。

午後からは鳥取県内三校の高校生による書道、吟詠、剣詩舞、ジャズの発表が行われ、観客を魅了した。その後研究協議が行われ、広島県立三次中学校・高等学校より「『親のせなか』子どもたちの未来のために」、岡山県山陽女子中学校・高等学校より「『愛と奉仕』そして感謝」百二十三年をふりかえって」、鳥取県立鳥取東高等学校より「『大切にしたい思春期の食生活』親から子に伝える生きる力」をテーマに発表があった。

最後に閉会行事が行われ、来年の舞台は広島県に引き継がれ、鳥取大会は終了した。昨年の愛媛大会の中止を受けて二年ぶりの大会となったが、鳥取県高P連のご努力で見事な運営が行われた。

第六十一回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会 鳥取大会
島根県から九五名参加

全国高P連団体表彰校実践報告 情報科学高校PTAの取り組み

島根県立情報科学高等学校PTA会長 野津 英之

令和元年八月二十二日・二十三日に開催された「第六十九回全国高等学校PTA連合会大会京都大会」において、本校PTAは全国高P連会長表彰(団体の部)をいただきました。これまで会員の皆様のご協力により「子どもよりも楽しんで」「うちの子もよその子も」を合言葉に活動してきたことが評価されたものと役員一同大変喜んでおります。

情報科学高校PTAには、進路・生活指導委員会、広報交流委員会、なでしこ委員会の三つの専門委員会があり、中でも特に意欲的で楽しみながら活動し、会員相互の交流の場となっているのがなでしこ委員会です。主な活動は八月下旬に行われる体育祭と、十月下旬に行われる校内ロードレースの昼食時に軽食などを調理し支援することです。

今年度の体育祭は、自家栽培でおいしく育ったスイカやブルーベリーが会員から提供され、よく冷えたフルーツポンチが生徒教職員に振舞われました。猛暑の中で冷たいデザートが熱中症を防ぎ、体の中から涼しくなると生徒教職員に大変好評でした。また、校内ロードレースでは子どもたちからのリクエストに応えうどんとフルーツポンチの二品を調理し



体育祭でのカレーうどん提供(昨年)

ました。どちらか調理の合間に「うちの子もその子も」に温かい声援を送りながら、子どもたちの頑張る姿にこちらも元気をもらい、とても良い思い出となりました。そして、これから開催される第四回情報ITフェアでは、自家栽培で育てた冬野菜がたっぷり入った温かい豚汁とおにぎりの販売を計画しています。

なでしこ委員会の活動は時代とともに変化を遂げてきました。例えば、近年は母親だけでなく父親の参加が多くなってきたことです。調理には屋外ガスを用的大鍋を用いた重労働もあるため、男性会員の力が欠かせません。父親も母親も協力してPTA活動に参加することで負担が少なく、楽しめる活動になっています。さらに「リユース食器」を活用するようになったことです。これは地球温暖化対策として

可燃ゴミの出来ない安定感のある食器でよりおいしく味わえることもあり、生徒達にとっても環境教育のよい学びにもつながっています。今回の受賞を励みとしてこれからも学校と協力して楽しくPTA活動を続けていきたいと思



リユース食器回収率は100%!

大社高等学校のPTA活動について

島根県立大社高等学校PTA会長 矢田 和則

本校のPTA役員には、PTA会長(一名)、副会長(校長先生を含む四名)、監事(三名)の三役があります。

さらに、学級別および地区別(中学校区別)にPTA評議員(六十二名)があり、年二回(五月・二月)PTA評議員会を開催して、予算・決算、事業等を審議・決定しています。また、年一回(五月)PTA総会でそれらを報告して、併せて授業参観や学年PTAを実施し、毎年多くの保護者の皆様にご出席いただいております。

地区別(中学校区別)のPTA評議員(二十二名)は、PTA会報を年二回(七月・三月)発行する広報委員会、PTA教育研修会(十一月)を主に担当する研修委員会、交通安全指導(立哨当番、九月)を行なう生活指導委員会に分かれて活動しています。



①大好評だった「グループ別手話講座」

十一月一日(金)のPTA教育研修会には、本校の「しまね教育の日」の事業でもあり、昨年度に引き続き出雲市役所福祉推進課、出雲市聴覚障害者協会と連携して、「耳の聞こえない方の講演」と「グループ別手話講座」(写真①)を行ないました。参加した保護者・生徒(三十二名)の皆様から「非常に興味深く勉強になった」と大好評でした。校長先生を含めて先生方も四名の参加者がありました。

また、お母さん方を中心に家庭と学校との連携や会員相互の研修と親睦を図る「PTAむらさきの会」が別があり、様々な活動をしています。九月一日(日)の鹿城祭(学園祭)初日にはバザー(写真②)と食品販売を行ない、今年度も出雲市民・生徒の皆様は大変喜んでいただきました。

また、お母さん方を中心に家庭と学校との連携や会員相互の研修と親睦を図る「PTAむらさきの会」が別があり、様々な活動をしています。九月一日(日)の鹿城祭(学園祭)初日にはバザー(写真②)と食品販売を行ない、今年度も出雲市民・生徒の皆様は大変喜んでいただきました。



②出雲市民に喜ばれた学園祭のバザー

大会旗は、2020島根へ

第七十回全国高等学校PTA連合会大会島根大会

本年度の全国高P連大会京都大会閉会式において、京都大会実行委員会奥野貴史委員長から、島根大会実行委員会大屋光宏会長に大会旗が引き継がれました。来年は、いよいよ島根に全国のPTA会員約一万人をお迎えすることになります。島根大会は、改正された全国高P連全国大会開催ガイドラインでの初の実施となり、今までの大会とは日程等大幅に異なります。また、会場が分散し大会運営においても様々な課題を解決しなければなりません。全国から参加されるPTA会員の皆様を温かく迎えることができるよう、島根県高P連挙げて準備を進めて行ければと思っています。なお、全体会場をくにびきメッセ、松江市総合体育館、島根県民会館としておりましたが、準備を進める中で、島根県民会館は分科会会場のみとして使用することになりました。そのために、実行委員会組織の担当校の若干の変更を行いました。該当校にはご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。この秋、各会場・部会ごとに、準備会議が担当校を中心に始まっており、事務局では、大会概要を作成し、全国高P連及び実行委員会に諮りながら大会内容を詰めて参ります。詳しくは、<https://mtg.shimakp.jp/>をご覧ください。



大会旗は大屋会長へ



特別出演のしまねっこといっしょに島根県の紹介をする大屋会長

大会テーマ 「こゝろ（えん）づくり」

「いいこゝろをつなごう世界へ、未来の子どもたちへ」

○大会日程（二〇二〇）

- 八月十九日（水） 午後～ 前日会議
分科会別打ち合せ会議（各分科会場）
大会運営会議・レセプション（ホテル一畑）
- 八月二十日（木） 午後～ 開始式、分科会
第一分科会 松江市総合体育館
第二分科会 調整中
第三分科会 島根県民会館
第四分科会 くにびきメッセ
第五分科会 三刀屋文化体育館
第六分科会 出雲市民会館
- 八月二十一日（金） 午前～ 全体会
くにびきメッセ（主会場）
松江市総合体育館（副会場）
- 閉会式
三ユーロジヤン
小泉八雲記念館館長 小泉 凡氏
講師 俳優 佐野 史郎氏
小泉 山本 恭司氏
記念講演 演題「未定」

世界カデ柔道選手権大会出場 会長激励費贈呈

平田高校柔道部 福田大和さん

県高P連では、当連合会に所属する高等学校の生徒やその生徒を指導する学校の指導者がスポーツ競技やコンテスト・審査会等の世界大会に日本を代表して出場する場合には、その栄誉を称え、健闘を期待して会長激励費を贈呈することとしている。今年度は、柔道競技でカザフスタンのアルマトイで開催された世界カデ柔道選手権大会に、日本代表として出場した平田高校柔道部一年福田大和さんと九月十八日（水）に平田高校校長室で塩野稔昭高P連副会長が激励費を贈呈した。出場種目（六十六kg級）と結果は次のとおり。二回戦 ウズベキスタンのアブデュラエフ選手に技ありと肩車で優勢勝ち
三回戦 ドイツのスペルリツチ選手に送襟締（おくりえりじめ）で一本勝
準々決勝 キリシヤのツオウトラシヒリ選手にGS・腕挫十字固（うでひしぎじゅうじがため）で一本負け
敗者復活戦 コロンビアのメジア選手に背負投げで一本勝
三位決定戦ブラジルのペレイラ選手に指導三回で反則負け
結果五位入賞と活躍した。福田選手には東京オリンピックの次のパリオリンピックに向けて今後の活躍に期待したい。福田選手には、後述のようにカザフスタン遠征時の手記を書いてもらった。競技会出場だけでなく、若い時代に世界の街を知り、新たな夢を描くことは大切なことである。県高P連としては、今後もそんな生徒を応援したい。



世界カデ柔道選手権での様子



平田高校での贈呈式

「世界一の柔道家を目指して」

島根県立平田高等学校一年 福田 大和

九月二十六日、カザフスタンのアルマトイで開催された世界カデ柔道選手権大会（カデ：十五歳から十七歳のカデット世代）に出場しました。この大会は、二年に一度開催される、柔道世界一を決める最も大きな大会です。

私は、平田高校入学直後の四月に開催された、全日本カデ柔道選手権大会で優勝し、六十六kg級の日本代表に選出されました。今まで憧れだった日の丸柔道着、日本代表ジャージが家に届いた時は、とても嬉しくて胸がいっぱいになりました。と同時に、また新たな気持ちで頑張ろうと気が引き締まりました。

日本で生まれた柔道ですが、今や世界のJUDOとなり、レスリングや各国の民族競技と共に進化し、組み方や技の種類、パワーの違い等、世界大会は日本での大会と同じ様にはいきません。世界のレベルは急激に上がっており、審判の判定も日本とは違い、攻撃を偽装攻撃とみなされてしまったたり、すぐに反則をとられてしまったり、難しい面がたくさんあります。また、食文化の違いの中で体重調整等、世界大会ならではの難しさもあります。それらに対応するために練習に取り組んで大会に臨みましたが、三位決定戦でブラジル人選手に敗れ、五位という結果で終わりました。会場は民族楽器が響き、大歓声の中での、日本ではありえない雰囲気の中で試合で、これも今後の貴重な経験となりました。

優勝を目指していた私としては、この結果には満足していません。世界中の柔道家が集まる夢の舞台で戦ったことで、世界一になるという大きな夢が目標に変わりました。今の自分に足りないものもよくわかりました。この悔しさを忘れず、世界一の柔道家になるために、またゼロから再スタートしたいと思っています。

またこの大会で、世界中の柔道家と交流を持ち、帰国後も連絡を取り合うことができる仲間ができたのは柔道のおかげです。出場にあたり、激励、支援して下さった平田高校の皆さん、応援して下さったすべての皆さん、ありがとうございました。

令和元年年度 県教委との意見交換会

十一月十三日（水）に大屋光宏会長以下五名の役員が教育庁で、県教委の新田英夫県教育長以下九名の職員と意見交換を行った。以下は、高P連役員の質問や意見に対する県教委の回答・意見等をまとめたものである。

「1」「しまね留学」と「教育の魅力化」について

「しまね留学」で県内の公立高校に入学する県外からの生徒数は今年度百九十五人で十年前の三・五倍である。島根県の先進的な取組みを参考に、同じような取組みが全国的に広がっている。中学校卒業時に地方の高校への進学も選択肢の一つとなることは望ましい。「しまね留学」の成果として多様な価値観との出会いやコミュニケーション能力の向上、地域の魅力や課題の再発見があり、県内生徒にもプラスになっている。県外出身の生徒に県内の高校を選んだ理由を聞くと「カリキュラムに魅力を感じた」と答えている。地域と連携し「課題解決型学習」を行い、「生きる力」を育む教育を提供している点が評価されていると分析している。教育の魅力化や課題解決型学習を進めるには学校と地域の協働体制（コンソーシアム）を作る必要がある。その地域の中心にいるのが保護者であり、学校経営に主体的に参加していただければありがたい。

「2」夏の学校の暑さ対策について

近年猛暑が繰り返され、五月や十月にも真夏日が続くなど、暑さの長期化も進んでいる。エアコンはもはや贅沢品ではなく、必需品である。高校では公費負担と保護者負担のエアコンが混在している状況で、県の財政を考えると設置や電気代をすべて公費負担で行うことはできないが、努力は続けていく。普通教室は今年度中に設置を終え、特別教室については設置の基準を設けて検討している。また、夏の暑さにもめない、水道の使用量も増えているので、その経費の公費負担は今後もしっかり行いたい。



意見交換会の様子

「3」教育予算について

安全で安心して子どもたちが学ぶ学校の施設・設備やICTを活用できる環境などのハード面だけでなく、スクールカウンセラーなど専門家の支援などソフト面も含めて教育環境の整備・充実が重要事項であり、十分な予算の裏付けが必要である。厳しい財政ではあるが、県教委としても新しい学習指導要領に基づく様々な施策や「しまね留学」や「教育の魅力化」、「夏の暑さ対策」をはじめ、教育はすぐに結果を求めるともではなく子どもたちの未来に投資するという考え方で予算の確保に引き続き努めたい。

「4」2020年度から始まる「大学入学共通テスト」について

大学入試改革の看板の一つは英語の民間試験導入であった。コミュニケーション能力育成重視の英語教育の改革は社会の支持を得ている一方で、実際の民間試験導入には課題も指摘されていた中で、突然の延期が発表された。中止ではないので、今後も離島・へき地にある高校の生徒や経済的に苦しい家庭の生徒への対応を考えていく必要がある。二つ目の国語と数学の試験への記述式導入についても、短期間で正確な採点ができるのか、自己採点が正確にできるのかなど、様々な問題が指摘されており、今後の国の動向を注視したい。

二〇二二年から実施される新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」をめざす授業に改善することが求められ、現在、県内の二つの高校をモデル校に指定し、その成果を全県的に広めたいと考えている。定期試験においても「主体的・対話的で深い学び」でついた力を評価できる内容に変えていくことが必要である。新学習指導要領に基づく授業改善を中心に大学入試改革に対応していきたい。

「5」教員採用試験の現状と教職の魅力について

全国的に教員採用試験の受験者が減少し、優秀な人材の確保が難しくなっているという報道もある。学校の役割は広がり、教育現場の多忙化や長時間労働を敬遠する若者が増えているという指摘もある。教職の魅力を高めるためにも「働き方改革」を進めていきたい。三月に「働き方改革推進プラン」を作り、時間外勤務時間の削減を今年度から三年間、年度毎に目標時間を設定して行う。また、モデル校を設定し、部活動の外部指導員や業務アシスタントを雇用し、教員の本来の仕事に集中できるような環境づくりを推進していきたい。

関西へ
進学される
学生
さんへ

島根県育英会「大阪学生会館」

入寮生募集!

大阪府及びその周辺の大学・短大・専門学校などに在学する島根ゆかりの人の修学の便を図るため、大阪府吹田市に男女統合寮を開設しています。大阪平野の北部に位置し、静かな住宅街で、大阪万博記念公園を望める絶好の環境です。



館内見学歓迎
県外出身者・
年度途中も
入寮可能
※その他要件あり

入寮費 15万円 (2年以内の場合は12万円)

応募資格 学校教育法に基づく大学・短期大学・大学院・高等専門学校(4年生以上)・専修学校(専門課程のみ)に在学又は進学予定の島根県とゆかりがある人(居住の経験がある人(例:しまね留学、父母または祖父母が島根県出身者)) (で公別)島根県育英会が定める要件を満たしている人

月額 寮費 3万5,000円

共益費 4,000円 (水道・ガス・共用電気代込、個室電気代別添)

食費 2万3,000円 (朝・夕食込、欠食時返金有)

安全安心のサポート 館長(元県立出身高校校長)夫妻が、24時間体制で管理を行いながら、寮生の健康面はもちろんメンタル面でのアドバイスも行っていきます。

特設施設 ●2003年(H15)築 ●鉄筋コンクリート造3階建 ●個室70室(男女) ●全館冷暖房完備 ●パブリックスペース(食堂・学習室・浴室・談話室・コインシャワー室・洗濯室等) ●ライバルルーム(個室(洋間6畳)・パブリック・配線・洗面化粧台・収納棚) ●新生活に必要なものは個室に備えられています

アクセス 〒565-0812 大阪府吹田市千里丘中58番10号

TEL06-6877-3058 FAX06-6877-3004

JR大阪駅→JR千里丘駅(15分) JR京都駅→JR千里丘駅(25分)

JR神戸駅→JR千里丘駅(50分)

JR千里丘駅下車徒歩15分 阪急摂津駅より徒歩20分

第62回中国・四国地区高P連大会 広島大会

とき 令和二年 七月一〇日(金)

ところ 広島市文化交流会館 広島文化学園HBCホール

テーマ 「一緒に探そう私たちの未来」〜伝えたい笑顔・聴かせたい声〜

※ 県高P連ではこの大会参加のための独自の宿舎を確保いたします。ご利用ください。

「大会案内」発送は令和二年四月中旬の予定です

事務局便り

平成三十一年二月に発表された「県立高校魅力化ビジョン」では、教職員・生徒・保護者・市町村・地域住民等が参加する「高校魅力化コンソーシアム」を構築し、教育の魅力化を進めることが示されています。アフリカのある国の格言に「子どもを育てるのに村一つ必要である」というのがありますが、子どもを育てるには親や家庭、学校だけでなく地域も子どもの成長を支えることが求められるようになっており、地域の住民でもある保護者の役割が今以上に重要となつていきます。県教委との意見交換会でもテーマになりましたが、教育の魅力化の推進や地元を支える人づくりには、まさしく「村一つ必要」です。大人が自分の生き方や働き方を子どもたちに見せ、同時に大人も子どもと一緒に学び合うことが大切だと感じました。本年もいろいろとお世話になりありがとうございました。よいお年をお迎えください。